

草玉工場の規則も保てんからぬ。

西沢氏 哀れな人は遠機もあゝか其人々の行為が會社の規則に違反して居る。其者はさうく澤山ある、其れが三回四回とやるかも知れん、其政諸君の意見も容れて、選抜しようとしたが諸君は辞退した。先があの案が諸君の御文書に重なり戴いた。

串細氏 多少要求を容れなければ出来ぬから時の経つのを待つが、

笠下氏 今此際不安が出来た、良い人を開門して入れる警察権を願てん下り、

三百八明日三百人と入れら但し昨日の條件を容れた者のみを入れると言ふ警察を執る。

得能氏 解雇が現在居るから其れは困難だ。

笠下氏 復心の者はかりと各位が極める。

得能氏 種々と仲裁の節を取って居て此の終無条件で其れを實行する。一應帰って先方の後分を後後す方がよいと保てんか。

笠下氏 それなら能く考へて下さい、後又返事を聴かう。

一同 ハイ……

時五時十分 名案出でず一同其終りして帰る。

此日の第議團幹部数名は午後より各支部の士氣振作の目的を以て巡回演説を行へり、

二十七日

本社より下村専務取締役代理として本社調度課長波谷千里氏、采島直之、因島警察署土生三庄、両町役場を挨拶の後、移り為訪問せり。

本日第議團は於て前日午後同様士氣を鼓舞する為、五分間巡回演説を試み甚だ静粛なり。然れども教目果流言並語は益々盛んとして噂は噂を生み人心甚だ穩かふる折も折も折突然同夜十時四十分頃より全島暗黒世界と化せるを以て、更に其度を増し會社並に工場幹部宅を襲撃する等の風説加り、全町挙げて恐怖の念よかられ、警官隊の非常活動警戒の中、同夜十一時二十分頃より再び明るが、世界と化れり。右は瀬戸内海横断電燈株式會社(隣村田熱村に在り)職工が突然同盟罷工を仰